

【会員だより】

ベトナム研修の思い出と現在の私

岩本 大成(大学6回生)

今回、学友だよりへの投稿依頼をいただくにあたりまして、どのような内容で掲載するか大変悩みました。そんななか、学生時代の友人とオンライン飲み会をする機会があり、ふと彼らと一緒にいったベトナム研修の思い出が脳裏をよぎったので、少し思い出話をさせていただきたいと思います。どうかお付き合いいただけますと幸いです。

私が初めてベトナムを訪れたのは2014年、当時大学3回生の夏です。同年に京都医療科学大学へ赴任された、松尾 悟教授(59回生)に「滋賀県放射線技師会の国際支援事業の一環として、ベトナムの医療支援をしている。一緒に行ってみないか。」とお声をかけていただいたのがきっかけでした。

一緒に訪越した学生メンバーは杉本寛季氏(大6回生)、川田悠平氏(大6回生)そして私の3名で、まさに今でも公私ともに連絡を取り合っているメンバーです。

研修では病院視察やベトナム放射線技師会学術大会への参加があり、大変刺激的なもので、帰国後も勉強へのモチベーションアップにもつながりました。何より現地の放射線技師の友人ができたことが大変嬉しいことであり、彼らが日本へ留学してきたときには一緒に京都観光に案内したり、逆に我々が卒業旅行で訪越した際には友人の経営するホステルへ宿泊したりと交流を続けてきました。余談ですが彼らは非常にお酒が好きなようで、ことあるごとに乾杯の音頭がかかっては、グラスを空けるというなんとも恐ろしいルールがありました。現地での飲み会の次の日は決まって二日酔いと聞いていた。しかし、今となってはとても良い思い出です。すっかりベトナム旅行にはまってしまった我々は、新たなメンバーに兼先勇佑氏(大6回生)を迎え、卒業旅行でもベトナムを訪れたのでした。

そんな彼らとは現在でも連絡を取り合っています。プライベートではもちろん、彼らの得意とする分野について論文を教えてもらうなど、非常に助けてもらっています。卒業してすぐの頃にあった、将来への期待やモチベーションが非常に高くあったものも、年数を経るにつれて少しずつ薄れてしまいがちですが、彼らと話すとき「負けたくない」「自分も頑張ろう」そう思える気がします。本学の同門会の名前である「学友会」というものがほんの少しだけ、分かったような気がしたのでした。

さて、学生時代の思い出話といえば他にもたくさんあるのですが、今回はここで筆をおくこととさせていただきます。ここまでお付き合いいただきましてありがとうございました。

末筆となりましたが、学友会の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。まだまだ油断できない日々が続くことが予想されますが、一日もはやく元通りの生活ができる日が来ることを望むばかりです。大学6回生の皆様、新型コロナウイルスが無事に終息した時にはぜひ同窓会を開催しましょう。同窓会実行委員長の杉本さん、ぜひ企画をよろしく願いいたします。

以上

* 通巻 242 号 2022 年 1 月 10 日発行(2021-No.4)より

